

豊かな大阪をつくる～「大阪市存続」の住民投票を踏まえて～
(第5回：橋下維新大阪市政を検証する)
2015年11月8日 於 大阪市立大学

ブラック・デモクラシーと一筋の光明

大阪市民：薬師院仁志

橋下氏の発言—2015年10月18日（此花区民ホール）

今回大阪自民党の会長について方ね、あの人ね、もうずーっとこのね、何年間か僕に対しての悪口を、もう風呂の中で屁こいたみたいにぶつぶつぶつぶ。「誰のおかげで市長になったんだ」「あいつは最初に市長誘ったけど断って、それは市長よりも知事の方が偉いから知事の方を選んだ」、嘘ばかり言ってます。一言も言ってないです。なんでかって言ったら、あんなアンポンタンにね、僕は本音でしゃべるつもりはありません。あの今の自民党の会長の方は、日本で一番論理力のない政治家ですから。もうありとあらゆるものはなんにもない、ほんと政治家。どうしようもない人。で、この人がまたトップに立って、大阪の自民党なんてこれろくでもないです。

1. デモクラシー（民主主義）の宿命

民主主義（民主政）……君主制・貴族政との対比で定義

統治形態の古典的三分類：統治者の数を基準とする

1. monarchie=君主政（王政）＝一人による統治
2. aristocratie=貴族政＝一部の者による統治。
3. démocratie=民主政（民主主義）＝全員による統治

※「démocratie」の語源＝ギリシャ語の「dēmokratia」。

「dēmos」の「kratos」＝「民衆の権力」・「人民による支配」。



民主主義には全員による統治という意味しかない。
基本的人権、国民主権、言論の自由、法治国家、権力分立などは、
ヨーロッパの近代化の中で登場した考え方。



みんなで決めれば何をしても可という危険を常に伴う。
今日の多数決万能主義の根源（ルーツ）。

しかし、現代的な民主主義は、単なる多数決であってはならない。
単なる民主主義だけが重要なのではない。単純で旧弊な民主主義が他の近代的
価値（基本的人権、言論の自由など）を破壊するのでは意味がない。

2. デモクラシー（民主主義）の運用

社会学的視点：あらゆる制度形式は社会的文脈（土壌）から切り離せない。

例) アメリカの民主主義輸出の難点

とにかく独裁者を追い出して選挙を実施し、議会を
作れば現代的な民主主義が実現するわけではない。



せいぜい数の獲得だけが自己目的化するだけ。

※他人に何かを頼むためには御礼が当然という社会では買収が横行。

ナショナリズムの土壌に選挙制度を乗せれば極右や排外主義が台頭。

複数の宗教が並存する社会に選挙を持ち込めば対立を刺激する。



現代的な民主主義という制度形式には、それを根付かせ、正しく展開させる社
会的土壌が不可欠。



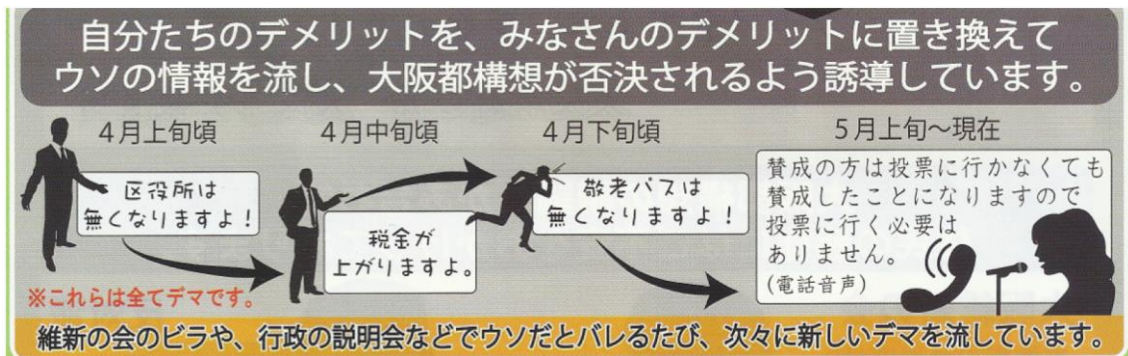
基本的人権や法治国家といった諸価値を社会的な土台を形成する努力が不可欠。
逆に、その土台を浸食するような政治手法は、ブラック・デモクラシーを生む。

（民主主義という木を植える土壌を腐敗させることで政治を暗黒化する。）

3. 「橋下維新大阪市政」の手法

- ・分断を煽る→全員による統治の土台を崩し、政治を勝ち負けにする。
- ・罵倒、弾圧、嫌がらせ→基本的人権や法治国家という価値の浸食。
- ・根拠なきプロパガンダ（政治宣伝）→選挙を商業的人気投票に墮す。





今回が大阪の問題を解決する「最後のチャンス」です。二度目の住民投票の予定はありません。

「今のままで大阪が良くなるとは思わない」、「次世代にツケを残したくない」、「財政破たんによる増税や住民サービスのカットは困る」と思われる方は、今回が本当にラストチャンスです。**賛成の投票をしてください。**



本田リエ
@hondarie

反対派のみなさん
ウソは付きつくしましたか？
次は対案をお待ちしています

(以上：大阪維新の会の頒布ピラ、ウェブサイト等より)

4. 一筋の光明

・住民投票における自民党・共産党・公明党・民主党の大同団結。

うわ物の個別政策より、大阪市という土台を護る共闘が成立。

・否決という奇跡的な結果。

草の根の反対運動＝土壌を腐らせることは出来なかった！！。

※富田宏治氏の収集資料より



